

かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者：亀田俊明 編集責任者：蔵本浩一

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)

index

P2 … 地域医療を担う専門性を活かした
質の高い医療・介護の紹介(シリーズ7)
スポーツ医学科 フィジシャンアシスタント

トピックス

勉強会・研修会開催のご案内

P3 … 地域医療機関さまより
医療法人社団三友会 三枝病院

P4 … 当院診療科より
集中治療科

P5 … 亀田総合病院の災害への取り組み
BCP・BCMの運用

P6 … スタッフひろば
レストラン亀楽亭

07 スポーツ医学科 フィジシャンアシスタント

高度臨床専門職センター 市川 顕

1. スポーツ医学科フィジシャンアシスタント (Physician Assistant : PA) とは

PAとは、スポーツ医学科のチームの一員として、看護師の専門性を活かし、スポーツ医学科のチーム医療を円滑にするための役割です。当院PA制度は、看護師の裁量権の拡大として、2010年度から始まり、現在PA4名体制で行っています。当院のPAは米国などの諸外国の資格とは異なり、看護師が行う院内認定の職種です。スポーツ医学科は整形外科疾患の中でも特にスポーツ、日常生活の中での特異的な動作に伴った障害を専門に診療しており、多くの疾患はまず薬物、運動療法などで加療し、必要に応じて手術加療を行っています。我々PAは、患者さまが安心して医療が受けられ、タイムリーに治療が進むように、外来、手術、病棟など治療過程の様々な面で患者さまを看護します。

2. PAの活動内容

PAは、医師とともに外来から入院、手術、術後フォローまで、患者さまが受けられる一連の治療・療養過程、また退院後の生活にも関わります。医師の指示のもと、外来では身体所見の評価、カルテ記

載、手術の日程調整や説明、他部門との調整などを行います。手術室では手術の介助を行い、病棟では医師とともに回診につき、患者さまの状態や不安なことなどを確認し、特定行為として関節腔内ドレーン抜去し、多職種とともに退院・転院調整なども行います。患者さまがスムーズに治療を受けられ、治療の不安を少しでも軽減できるよう、外来から入院、退院後の外来フォローまで、安心できる信頼関係作りを心掛けています。スポーツ医学科の診療科の特性上、ときにはスポーツ現場での救護やメディカルチェックに参加することもあります。

3. 業績と今後の展望

2023年度は約500名の手術が必要な患者さまの対応を行いました。外来から手術、術後フォローまでの一連の治療過程に医師とともに関わり、様々な治療・療養過程で患者さまが抱える問題を解決する手助けとなることが、この仕事のやりがいとなっています。今後は看護師特定行為を活用し、さらなる看護の専門性を発揮していきたいと思っています。



【2024年度】ELNEC-Jコアカリキュラム

- 【日時】1日目:2024年6月29日(土)9時~17時
2日目:2024年7月6日(土)9時~17時
※2日間全モジュールを受講すると修了となります
【申込】QRコードよりお申し込みください
【締切】2024年6月14日(金)

【2024年度】がん看護コミュニケーションコース研修

- 【日時】1日目:2024年7月27日(土)8時15分~17時
2日目:2024年8月3日(土)8時15分~17時
【会場】亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホール(予定)
【対象者】がん看護経験年数2年目以上でがん看護に興味のある看護師
※アンケートに協力できる方・2日間参加できる方に限らせていただきます
【申込】QRコードよりお申し込みください
【締切】2024年7月6日(土)



参加ご希望の方はそれぞれの締切までにお申し込みください。

地域医療機関さまより



医療法人社団三友会 三枝病院
院長 三枝 奈芳紀



▲病院外観

三枝院長▶



皆さん、こんにちは。
安房・上総地域の病院・診療所の先生方には平素より大変お世話になっております。医療法人社団三友会三枝病院は、千葉県富津市にあります32床の急性期病院です。併設施設として、同一敷地内に介護老人保健施設・ケアセンターさきくさ(100床)があり、隣の君津市には、姉妹法人である社会福祉法人三友会が運営致します特別養護老人ホーム・ウィステリア八重原(80床)があります。

三枝病院のルーツは富津市佐貫にありました三枝医院で、天明2年(1782年)に初代院長三枝伝碩が佐貫藩主であった阿部家(幕末老中阿部正弘の分家筋)に取り立てられたことが始まりだったとされています。以後6代にわたり、佐貫の地で阿部家の侍医として務め、一方で地域住民向けの診療所も開設して参りました。

昭和43年になりまして、7代目となる現理事長の三枝一雄が富津市青木に外科病院を開設いたしました。病院開院当初は積極的に開腹手術等を行って参りましたが、時代の変遷とともに患者の大病院志向が強くなり、また一方で超高齢社会を迎え老人医療に対する需要が高くなったため、老人医療・介護主体の医療にシフトして参りました。平成9年に老人保健施設を開設し、平成26年

には特別養護老人ホームを開設致しました。そして、平成30年には病院が老朽化し耐震強度が不足したため、同一敷地内に新病院を建設して移転しております。

病院機能の分類では一応急性期病院となっておりますが、実際の患者としては高齢者が多く受診されています。高齢者の場合には、急性疾患で入院してその病気が治っても、廃用症候群や認知機能の低下等によって早期の退院が難しくなる場合が多いのですが、そうした患者に対しては、老健と特養を活用して入院が長期化しないように努めております。また逆に、老健・特養の入居者が急性疾病に罹患した場合には、早期に対応できております。

また、以前から在宅医療にも積極的に取り組んでおり、法人外の老人施設やご自宅への訪問診療・訪問リハビリ等も行っておりますし、依頼されれば在宅看取りも行っております。病院が在宅診療をする強みとして、在宅と病棟を一元的に管理できるため、在宅療養中に肺炎など入院治療が必要となった場合にも速やかな対応ができています。さらに、令和3年より近隣の在宅診療所と連携し、機能強化型在宅支援病院も取得しております。

企業の本来の目的は人材育成にあることに鑑み、人間性教育を主体とした職員教育の充実を図り、自己犠牲を厭わない思いやりのある職員の育成に努めております。毎朝の朝礼におきまして、「心のカレンダー」を参考に思いやりの心の形成に努力しております。今後は、地域の医療・介護・福祉連携のハブ病院となれるように努力し、微力ながら地域医療に貢献して参りたいと思っております。

亀田クリニックさま・亀田総合病院さまとは若干距離がありますので、なかなか常時の患者のやりとりは行えておりませんが、他院で断られて困った際には快く対応していただき大変助かっております。今後とも、お力添えを賜れば幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。





集中治療科

主任部長 林 淑朗
部長 軽米 寿之



▲集中治療科スタッフ 林淑朗主任部長▶

亀田総合病院の集中治療科は2013年に発足した比較的新しい診療科です。「集中治療科」という名前をあまり聞き慣れない方もいるかもしれません。日本の集中治療は長らく麻酔科や救急科、あるいは各臓器別診療科の医師の業務の一環として行われてきました。しかし新型コロナウイルス感染症蔓延を契機に、重症患者管理を専門に行える診療科として昨今非常に注目度が高まっています。2022年10月には厚生労働省調査 医師届出表の「従事する診療科名」に新規に追加され、制度上も「集中治療科」を標榜することができるようになりました。ここでは当院の集中治療科が担っている役割をご紹介します。

Closed ICU

当院の集中治療室(ICU)はClosed ICUです。Closed ICUというのは患者さまの全身管理を、ICU専従の集中治療科医師が担当するシステムのことを指します。反対にICU専従の医師がおらず、どの科の医師でもICUのベッドで診療ができるスタイルをOpen ICUと呼びます。当院では患者さまが集中治療室に滞在する間の診療を全例で集中治療科が担当するシステムをとっております。予定手術の術後であっても、救急からの入院であっても、

重症であればどのような病態でも管理するのが我々の役目です。2024年3月現在19名の医師が所属し、昼夜変わらぬ体制で集中治療を提供しています。

Closed ICUシステムの利点として

- ・多臓器にまたがる問題に熟練した集中治療医が管理を行う
 - ・医師が常駐するため、速やかに治療を開始できる
 - ・重症患者管理の質が一定水準以上に保たれる
 - ・治療が均質化され、さまざまなコスト削減につながる
 - ・集中治療科医師を含んだ重症管理の多職種チームを形成できる
- などが知られています。

働き方改革

2024年4月から 医師の働き方改革が施行されますが、Closed ICUはここでも一役買っています。重症患者さまの病状は刻一刻と変化しており、ときには急ぎの対応が求められることもよくあります。そんなとき集中治療科がない施設では、ICUに担当患者のいる主治医に連絡が入ります。しかし主治医は外来中かもしれません。外科系診療科なら、手術中の医師が誰か手術から抜けなければならないかもしれません。これでは日常診療が後回しになってしまい、労働時間はどんどん伸びていってしまいます。

当院では集中治療科の医師がICUに常駐して管理しているので、外来を止めたり手術から離れたりする必要がありません。複雑を極める重症症例の病棟管理を私達が担当する一方で、手術など専門科にしかできない治療や検査が必要なときは専門科の先生方へ相談して診療がすすんでいきます。一人の主治医が入院の全責任を請け負うのとは違って、入院診療の一連の流れの中で各診療科がその専門性を適時に発揮していくことで働き方改革の目標が達成されるとともに、日々行われる診療の質も高められていくことが期待されます。

Medical Emergency Team(MET)

集中治療科はICU診療の他に、METの活動も行っております。METとはICU以外の病棟に入院している患者さま、あるいは外来患者さまでも急変が差し迫っている徴候のある患者さまを早期に認識し対処することを目的としたチームです。当院のMETは2015年の運用開始以来、院内急変防止のため早期介入および啓蒙活動を行っています。

集中治療科は世界的にも新しい診療科ですが、多様化・高度化の進む医療に対応していくための鍵となる分野だといえます。亀田総合病院の高度医療を支える縁の下のような力持ちのような存在となれるよう精進してまいります。

亀田総合病院の 災害への取り組み

BCP・BCMの運用

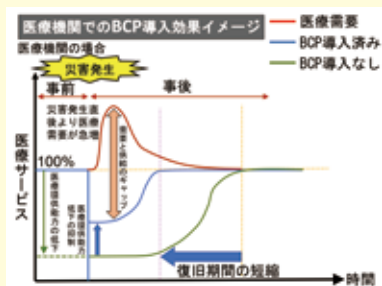
災害対策調整室 小倉 健一

1月1日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々へお見舞いを申し上げます。

BCP(事業継続計画)の導入経緯

厚生労働省は2012年3月に、医療機関は自ら被災することを想定して災害対策マニュアルを作成すると共に、BCPの作成を務めるように通知を発出されています。BCPを導入する目的は、あらかじめ復旧計画を定めることによって、提供できるサービスを早期に回復して業務を継続することを目指すものです。しかし、医療機関の場合、災害により生じた負傷者の受入れなど、災害発生直後から医療ニーズが急増するため、発災直後の医療ニーズと提供できるサービスのギャップを埋める必要があります。

《BCP 導入効果のイメージ》



▲ 2019年10月25日の大雨

当院は千葉県より基幹災害拠点病院の指定を受けており、災害時においても重傷者の受入れを継続できるようにしておく必要があります。また、近年ではライフラインに影響が生じる災害が増えており、当院もBCPの策定をおこなうことになりました。

実際に、2019年10月25日の大雨や2023年台風13号による大雨では、救命救急センター駐車場の冠水により救急搬送の受入れ場所の変更や排水障害が発生したため、水の使用制限を

おこなうなどBCPを発動する事例も生じています。

基本方針の決定

地域の基幹病院および基幹災害拠点病院としての役割から、基本方針を次の通りと定めています。

「人為災害、自然災害、特殊災害など、あらゆる災害

に対して災害時医療体制を構築し、傷病者受入をおこなう。当院が被災地域に含まれている場合は、病院職員と患者の安全確保と、在院患者および傷病者受入のための病院の診療機能を維持することを最優先とする」

BCPの導入

基本方針を基に、災害組織体制図の作成、「千葉県地震被害想定および鴨川市ハザードマップ」を基に当院のリスク分析をおこない、緊急時の避難基準と方針の決定、ライフライン設備を把握し、ライフラインが途絶した場合の代替え方法や応急対応協定等の締結、多数傷病者を受け入れる場合の診療体制、人的・物的な支援対応、職員支援、外部関係機関・地域との連携、院外への医療救護班の派遣手続きについて関係部門と検討をおこないISO文書管理規定「災害対応マニュアル」を制定しました。

BCM(事業継続マネジメント)の運用

BCPは制定して終了という訳ではありません。職員がBCPの内容を把握し、いざという時に対応できるようにしなければなりません。その為、当院では、年3回の全体訓練(火災想定訓練、災害訓練)と部署訓練を年30～40回ほどおこない、職員教育とBCPの検証をおこなっています。

訓練や実災害で生じた課題は、検討会を開きBCPの改定をおこない、現在では第7版に改訂しています。このようにPlan(計画)、Do(実行)、Check(検証)、Action(対策・改善)のプロセスを繰り返し、災害時でも医療活動が継続できるように努めています。

【主だった全体訓練】

2019年：大規模地震時医療活動訓練(地域籠城・多数傷病者受入)

2021年：システムダウン訓練(電子カルテが使用できなくなった場合での検証)

2023年：災害対策本部訓練および帰宅困難者受入対応(津波による被災、被害状況把握、帰宅困



▲2023年災害対策本部訓練、
帰宅困難者受入対応

難患者および職員の対応を検証)

大規模災害が発生した場合、各施設だけでは解決しない事例が多数生じます。そのため、日頃

から市町村、保健所、医療機関や高齢者福祉施設などと地域BCPの策定が必要とされています。基幹災害拠点病院として、地域全体で災害対策に取り組むべく、今後も研修や訓練を計画して参りますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



蔵本 浩一

- ① 診療部 疼痛・緩和ケア科 医師
- ② 体育
- ③ 魚水



大川 薫

- ① 診療部 在宅診療科 地域医療支援部 医師
- ② フィールドワーク
- ③ カフェカルトーラ



草薙 洋

- ① 診療部 消化器外科 医師
- ② 算数
- ③ なが島・四季・薩摩



宮地 康僚

- ① 診療部 腫瘍内科 医師
- ② 音楽
- ③ チャチャ



渡邊 八重子

- ① 看護管理部 看護師
- ② 体育
- ③ インド料理店の パターチキンカレー



影山 ユウ子

- ① 地域医療連携室 看護師
- ② 国語
- ③ 山田屋食堂



川上 由美

- ① 看護管理部 看護師
- ② 国語
- ③ アペティート



吉野 有美子

- ① 総合相談室 看護師
- ② 体育・算数
- ③ 助八



安室 修

- ① 薬剤部 薬剤師
- ② 理科
- ③ 石渡チキンストア



鎌田 喜子

- ① 総合相談室 MSW
- ② 体育 (倒立前転が得意だった)
- ③ CoZucca, KAMOGAWA BREWERY



児玉 照光

- ① 総合相談室 MSW
- ② 体育
- ③ 来未



長江 弘子

- ① 亀田医療大学 教授
- ② 体育 (とび箱が得意種目)
- ③ CAMA Kitchen



中村 雅代

- ① 地域医療連携室 事務
- ② 体育 (マット運動)
- ③ 打墨庵 加瀬



大橋 洋子

- ① 地域医療連携室 事務
- ② 音楽
- ③ たこちゅう



黒川 亜純

- ① 地域医療連携室 事務
- ② 音楽
- ③ 鴨川食堂



林 裕子

- ① 地域医療連携室 事務
- ② 音楽 (合奏・鼓笛隊)
- ③ 恵食堂 (ええしょくどう)



レストラン 亀楽亭

第3弾

今回は亀楽亭と同じKタワー13Fにあります

デリショップ DELICA

のご案内をさせていただきます

DELICA では、ガパオ丼や麻婆豆腐丼、青椒肉絲丼、ユッケジャンスープ、クラムチャウダー等、月替わりで小丼ぶり、食べるスープを販売しております。

中国・韓国・インド・シンガポール・タイ等、世界中の味を気軽にお楽しみ頂けるように、季節の食材を生かし展開しています。

ピリ辛の中にもココナッツミルクの甘みもあり、一度食べたらやみつきの味です。



通年販売中です

タイ風グリーンカレー

292kcal 塩分 2.8g



サラダ・唐揚げ等の総菜や、食後のデザートとしてケーキや鴨川プリン(株式会社梵まる)も販売しています。

レストランで食事をする時間の無い方、テイクアウトもできますので是非一度お立ち寄り下さい。
毎月のメニューはInstagramに掲載中です。
是非フォローして頂き、内容をご確認下さい。



DELICA

Kタワー13F DELICA (デリカ)

《営業時間》

11:00~14:00
日曜祝日は休業